名古屋市教育振興基本計画（案）に対する
市民意見の内容及び本市教育委員会の考え方

「名古屋市教育振興基本計画（案）」に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見とそれに対する本市教育委員会の考え方を公表します。

なお、ご意見のうち、内容について趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますので、ご了承ください。

平 成 ２３年 ３月

名古屋市教育委員会総務部企画経理課
電 話　０５２（９７２）３２７２
ＦＡＸ０５２（９７２）４１７５
電子メール　a3272@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

実 施 結 果

1 実施期間 平成23年1月25日（火）から2月25日（金）まで

2 提出状況

（1）意見提出者数 108 人

（2）意見提出方法

手段	持 参	郵 送	FAX	メール	計
人数	1人	4人	78人	25人	108人

（3）意見総数 183 件

3 市民意見の区分

（件）

市 民 意 見 の 区 分		件数
1 計画全体に関すること		8
施策の基本的方向	2 「なごやっ子」としての資質を育む“学び”の提供について 【施策 1～ 5】	54
	3 教育環境の整備と、教員の意欲・資質の向上について 【施策 6～10】	96
	4 学校・家庭・地域の連携について 【施策 11・12】	6
	5 教育関連制度の改革・改善について 【施策 13・14】	10
	6 生涯を通じた学びの支援について 【施策15～17】	3
7 その他（計画と関連がない意見）		6
計		183

1　計画全体に関すること（8 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
「掲載事業と関連する主な他の個別計画」には、名古屋市産業振興ビジョンが記述されていないが、この二つの計画及び所管する部署とは連携が取れているか。	1	掲載した主な計画以外についても、名古屋市基本構想のもと策定された市総合計画の個別計画として整合を図ります。また、事業の実施にあたっても、関連部署と連携をとって進めていきます。
教育委員による教育の問題や方向性について、真摯な議論を望む。	1	本市教育の基本方針や重要事項の決定の際には、教育委員の間で、様々な意見を述べ合い議論を行っています。今後とも、教育行政の現状や課題の把握、先進事例の把握などを踏まえながら、本市の教育について議論を行っていきます。
今日の名古屋の教育に問題がないのかどうか検証が必要だ。	2	今回の計画策定にあたっては、教育を取り巻く現状を明らかにし、そこから見られる課題を整理したうえで、施策の基本的方向や個々の施策内容を構成しています。
教育行政において、数値目標を前提とした PDCA サイクルは根本的に再検討する必要があるのではないか。	1	教育行政において、すべてに数値目標を設定することは、なじまない部分もあると思いますが、教育行政におけるPDCAサイクルを実施する際に、数値目標を用いて客観的な評価を行うことは、有効であると考えています。
パブコメだけではなく、幅広い市民の声を直接聞く公聴会等の開催をしてほしい。	1	この計画の策定は、パブリックコメントの他に、公募委員を含めた外部の有識者や市民の代表者による検討委員会や市議会からもご意見を聞きながら進めてきました。今後も幅広く市民の声を吸い上げ、反映していきたいと考えています。
検討委員会など検討過程の情報をもっと公開するべきではないか。	1	策定にあたって、開催した外部の有識者による検討委員会は、5回全てにおいて公開の会議で進めてきました。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
子どもたちも教育に対するしっかりとした意見をもっているので、大人だけでなく、子どもたちの意見も、もっと取りあげてほしい。	1	子どもを対象とした事業の中には、大学生の意見をとり入れたり、子どもを対象としたアンケートを事業実施の参考としているものがあります。子どもたちの意見をできるだけ現場で吸い上げ、反映していきたいと考えています。

２ 「なごやっ子」としての資質を育む“学び”の提供について（54 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
志段味中学校で取り組んでいる「しだみカルタ」の作成を参考に「ご当地カルタ」の作成を他学区に広げたらどうか。	1	「しだみカルタ」は、総合的な学習の時間の活動として作成されました。今後も、各学校においては、それぞれの教育方針に基づいた総合的な学習等の中で、郷土に関する学習を展開していきます。
なごやっ子を育てるため、名古屋弁を地域のお年寄りから教えてもらう機会を設けてはどうか。	1	お年寄りから、郷土のことばや文化などを学ぶ機会は大切であると考えており、既にそれに取組んでいる学校もあります。また、小中学生を対象にした生涯学習センターのトライアルサタデー講座などにおいても、日頃の生活で体験できないような活動を、地域の人材の活用などにより、提供していきます。
子どもたちに英語や多言語にふれる機会や、社会体験をする機会を提供してはどうか。	1	新学習指導要領により、平成 23 年度から、小学 5･6 年生において年間 35 時間に拡充して外国語活動に取り組んでいきます。 また、小学校での会社訪問、中・高等学校での職場体験なども取り組んでいきます。
名古屋や世界で活躍している人の講演等、子どもが夢をもつきっかけ作りができる場をつくってほしい。	1	各学校では、地域で活躍している人を招いて講演等を行う、ゲストティーチャーの活用などを行っています。また、学校に新たに登用する外部人材を活用するなど、子どもが夢をもつきっかけ作りができるよう取り組んでいきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
児童一人一人をきめ細かく指導するため、指導を手助けする先生が、もう一人学級に配置できるよう、支援講師の派遣数や派遣時間数を増やしてほしい。	18	児童・生徒をきめ細かく指導するために、基礎学習講座や発達障害対応支援のための非常勤講師の配置の拡大に努めていきます。
子どもたちのよりよい学習環境の充実のためにも、補助教員を充実してほしい。	1	
大規模校は小規模校と比較すると、学習面だけでなく生活指導面でも大いに差があるので、講師配置において柔軟に対応してもらいたい。	1	発展的・補充的な指導を充実させるために、学校規模もふまえて非常勤講師を配置していきます。
より多くの目で生徒一人一人を見ることができるように、少人数学級を実現してほしい。	2	一人一人へのきめ細やかな指導という点で、少人数学級は重要な施策の一つと考えます。中学 1 年生では、愛知県と同様、中学校進学時に生じる学習や生活の変化への対応を図るため、平成 21 年度より 35 人学級を実施しています。また、小学 1,2 年生では、学校生活への適応を図るため、30 人学級を実施しています。少人数学級については、今後も、国の教職員の定数改善の動向等について、注視していきます。
30 人学級を1年生だけでなく他の学年にも広げてほしい。	1	
子どもとふれあう時間を確保するため、小学校 3 年生以上で 35 人学級を実現してほしい。	9	
子どもに対して学ぶ意義を分かり易く教え、自発的に学習するような教育が必要である。	1	各学校においては、学ぶ意欲の向上や学習習慣の確立などをめざした学校教育の努力目標をふまえ、引き続き教育活動を展開していきます。
子どもが勉強などでつまずいても、力強く自分の道が歩けるよう教師や親が力を貸すことが大切である。	1	子どもが自信をもって生き抜けるよう、教師や親が励ましたり勇気づけたりすることは大切であると考えます。
高等学校に関する施策を増やしてほしい。	1	各高等学校がより特色のある教育を進めることができるよう、引き続き検討していきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
男女平等参画社会の実現に向けて、幼稚園から小・中・高等学校にいたるまで、あらゆる機会で男女平等教育を行ってほしい。	1	各学校（園）においては、発達段階に応じた教育活動全体を通して、引き続き男女平等観に立った人権教育を進めていきます。
市内全校の子どもたちが継続して受けることができる、自転車の安全な乗り方などの交通安全教育を、名古屋市が率先して進めてほしい。	3	各学校で、自転車の安全な乗り方をはじめ交通安全指導を展開しており、今後もその充実を図っていきます。
授業は校内に限らず、CSR（企業の社会的責任）に理解がある企業の現場で就労体験をしてはどうか。	1	職場体験学習の意義を理解していただいている企業において、これまでも児童・生徒を対象に就労体験が行われており、今後もその充実に努めていきます。
子どもの教育においては、日々の生活習慣を身につけることが基本であり、その点を重視すべきではないか。	1	今回策定する計画では、望ましい生活習慣が定着し、健やかな体が育まれることを、めざす姿としており、なごやっ子の体力アップ推進事業などに取組んでいきます。
部活動を専門に担当する外郭団体等の組織づくりをしてほしい。	1	学校部活動は教育活動の一環で、教員が顧問として活動を行っています。その中で専門的指導を必要とする場合、外部指導者などの派遣を行っており、各学校の現状などを確認し、派遣事業を推進していきたいと考えています。
教員の多忙化解消のため、部活動を学校教育から切り離してはどうか。	1	
部活動を外部の人が指導する体制づくりをもっと進めてほしい。	2	
クラス単位で、美術館、博物館、科学館等へ行き名古屋を知る勉強をしてほしい。	1	各小学校の児童は、美術館で名古屋を中心とする「郷土の美術」を、博物館では、名古屋の歴史・文化を、それぞれ団体利用で学んでいます。さらに、科学館では、小学4、6 年生を中心に学年単位で、プラネタリウムの学習投影に参加しています。また、3館とも、小中学生のクラス単位学習の受入れなどを行っています。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
授業参観の際には、学習の目標が何なのか分かるように、掲示したり、印刷物を用意したりしてほしい。	1	授業参観の際に、掲示物や印刷物によって、学習の目標や内容などを知らせている学校もあります。より多くの学校でこうした取組みをするよう普及を図ります。
小学校の授業でボウリングをやってはどうか。	1	小学校の体育科では、学習指導要領で運動内容が例示として示されており、その中に「ボウリング」がないことから、授業では扱うことは難しい状況ですが、特別活動などでレクリエーションの一つとして簡易のボウリングを行っている学校もあります。
子どもの権利条約を子どもに周知し、学校で実現していくプロセスを保障してほしい。	1	子どもの権利条約の精神をふまえ、引き続き一人一人の子どもを大切にした教育活動に取組んでいきます。
少しでも泳げるようになるため、学校での水泳指導を充実してほしい。	1	水泳指導については、小・中学校では体育科・保健体育科の授業で、限られた時間の中ではありますが、指導方法を工夫し、学習指導要領の目標を達成できるよう授業を実施しています。 また、体育の授業とは別に、多くの学校では、夏季休業中の出校日に合わせて、水泳指導を行っているところです。

３ 教育環境の整備と、教員の意欲・資質の向上について（96 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
守山養護学校以外の特別支援学校にも、高等部に産業科を設置してほしい。	1	守山養護学校以外の特別支援学校に産業科を設置することは、空き教室が少ない現状からも、困難な状況であると考えます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
特別支援学校の作業実習科目を新しくしてほしい。	1	教育課程は生徒の実態に合わせ各学校で考えております。学習指導要領の改訂を踏まえ、今後もよりよい教育内容を目指していきたいと考えています。
市立高校にも特別支援教育のための専門家チームを派遣してほしい。	1	専門家チームの派遣は、高等学校も対象となっており、学校からの希望に応じ、引き続き派遣していきます。
特別支援教育のための校内教員研修、事例検討会等を開催してほしい。	1	スクールカウンセラーや関係機関と連携をとりながら、研修や事例検討会などを充実させていきます。
希望する小中学校、特に中学校に、発達障害対応支援講師を派遣してほしい。	1	発達障害対応支援講師は、22年度32校に配置をしており、23年度はさらに拡充を図っていきます。
他府県でも成果を上げているので、発達障害対応支援員の養成と配置をしてほしい。	2	発達障害のある幼児児童生徒にとって、学校生活全般で、適切な支援が受けられるよう発達障害対応支援員の配置に努めていきます。
特別支援学校の無い普通の中学校でも、日常的に特別支援が受けられるシステムをつくってほしい。	1	個別の支援が必要な児童生徒には、発達障害対応支援講師や発達障害対応支援員などの配置を進めていきます。
幼児期から義務教育以後まで、特別支援教育全般の連携・振興を図ることができるような仕組みづくりをしてほしい。	1	教育・医療・療育期間の専門家で構成する専門家チームの派遣により、幼児児童生徒の支援を行っています。今後も特別支援教育全般の連携・振興に努めていきます。
教師をサポートするために、カウンセラーの常勤化や教師に重点を置いたカウンセラーを設置するなど校内カウンセリング制度の更なる充実をしてほしい。	1	現在配置しているスクールカウンセラーは、子ども・保護者に加え教師に対するカウンセリングも行っており、今後もその充実を図っていきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
子ども適応相談センターに通う発達障害の子の特質を理解して支援をしてほしい。	1	子ども適応相談センターでは、一人一人に応じた、きめの細かい対応をしています。引き続き、子どもたちの学校復帰をめざした専門機関として、教育相談や適応指導などの事業に取組んでいきます。
子どもの生活困難からくる対応に教員はおわれている。不登校のみでなく、生活状況を相談できるスクールソーシャルワーカーを各区１名配置してほしい。	2	本市では、生活困難や家庭生活が十分に営めないことから児童生徒が不登校になっている家庭に、相談員が出向いて支援を行う生徒指導相談員制度を実施しています。本事業を文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業として実施し、家庭への有効な支援の在り方の工夫を行っているところです。今後も、よりよい支援の在り方を研究し、制度の充実に努めていきます。
旧六反小学校を活用した不登校対応の私立中学校の入学希望者には、経済的援助の方策を考えてほしい。	1	設置される学校での保護者負担について、今後、把握に努めていきます。
不登校・いじめに教員が余裕をもって対応するため、正規の先生をたくさん採用してほしい。	1	子どもと向き合う時間を確保し、教育活動の充実を図るため、教員の定数増がはかられるよう、国をはじめ、関係機関に働きかけていきます。
支援を必要とする子どもの対応として、教員退職者あるいは免許・資格等を持っている人で、ボランティアで指導に当たってもよいという意思を持つ人(登録制をとったり、研修を受けたりした後)を、活用したらどうか。	2	支援を必要とする子どもへの対応として、教員の資格のある支援講師を配置拡大するとともに、外部人材を登用したり、介助などの知識や経験のある方を新たに支援員として派遣します。また、教育サポートセンターでは、教員免許を有する方にご登録いただき各学校の要請に応じて講師紹介を行っているほか、資格の有無に関わらず、学校行事などをサポートするための「学校運営サポーター」としての登録制度も実施します。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
いじめがどうして発生するのか、いじめをなくすためにはどのような指導が必要かといった、「いじめを生まない学校づくり」の観点を入れてほしい。	1	いじめは対人関係における問題であるという視点に立ち、児童生徒同士の心の結びつきを深め、社会性をはぐくむ教育活動を引き続き進めていきます。
安全で快適に学べる学校環境をつくるために、アセットマネジメントの充実をしてほしい。	1	全市的に検討されているアセットマネジメントの考え方を踏まえ、施設の長寿命化を図りながら、快適な教育環境の整備に取組んでいきます。また、学校の特性に合わせた維持・改修内容となるよう努めていきます。
中央高校の昼間定時制の施設設備が現在、飽和状態であるので、環境を整えてほしい。	1	
老朽化が進んでいる建物について、早急に大規模改造事業を進めてほしい。	21	雨漏りや漏水等の緊急性の高いものに対しては、これまでも早急な改修をしておりますが、建物全体の老朽化に対応できるよう、屋上防水、外壁、内装の改修を総合的に行う大規模改造事業を計画的に行っていきます。
学校のトイレは和式中心なので、洋式への改修をしてほしい。子どもや、車いすに乗った人のために、トイレの改修を強く望む。	5	明るいトイレ改修事業や大規模改造事業として、照明器具の増設、便器の洋式化などを進めていきます。また、車いすを使われている方も利用できるトイレは、校舎の新増改築や肢体不自由学級が設置される際に整備を進めています。
毎年教育予算が削減され、老朽化した教師用教材を買い換えることができない。子どもたちの学びのためにも、必要な物を購入できるよう、教育予算を増やしてほしい。	5	各学校において、教育活動に影響が出ないよう予算の効率的な執行と確保に努めていきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
校庭・園庭の芝生化はよいことだと思うが、学校の暑さ対策として、芝生化よりも、まずは、すべての教室に冷房設備を導入するべきではないか。	3	現在、本市では、大気汚染や自動車騒音といった公害への対策として、教室への冷房設置を行っています。すべての教室への冷房導入は、酷暑期に長期の休業日を設けていることや、施設整備に多額の経費を要するといった課題があることから、直ちに実施に踏み切ることは大変困難な状況と考えています。
教室の照明が基準を満たしていても、学習においてかなり暗いと感じる。省エネ効果もある明るい照明器具を各校に設置してほしい。	1	学校建物の新増改築や大規模改造事業などの機会をとらえ、省エネ効果のある明るい照明器具の設置を行っています。また、既設校については、蛍光管・器具の取替及び増設を行うことにより、教室環境の維持・向上を図っています。
遊具を使用中の子どものケガが多い。基準にある周囲 1.5mの安全領域が確保できるよう、遊具の改修や保護マットの設置等をすすめてほしい。	1	幼稚園・小学校では、年に2回、専門業者に委託して遊具の安全点検を実施しています。その中で、ご指摘の「遊具と周囲の施設等の距離」につきましても、「遊具の安全に関する基準」に基づき、危険と判断される場合などには学校に改善の指摘をしています。遊具の安全性については、遊具の安全点検結果を踏まえた補修を行い安全確保に努めています。
教育委員会で人事に関して人材の把握をきちんと行い適切な配置をしてほしい。	1	教育委員会における職員については、職員の能力開発や適材適所の配置などの基本的な考え方にもとづき、適切な人事管理を行っています。職員の資質の創造的発揚並びに組織の活力化及び伸長を図っていきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
教員の自主的な研修を保障してほしい。	1	教員の研修については、学校運営に支障のない日に校長の承認を得ての研修が認められています。教員が自ら専門性を高めたり、課題解決するための各種研修を用意し、個々の教員のニーズに応じて受講できるようしています。
能率を上げ、子どもとむきあう時間を確保するため、能力不足や指導力不足、やる気のない教員には指導を加え、改善の余地がない場合には退職勧告を行うなど積極的に教員の質の向上に力を入れてほしい。	1	指導が不適切と判定された教員には、教育センターや学校において 1 年間の研修を集中的に実施し、資質向上、力量向上を図っているところです。
指導力向上のため、授業研究時に外部（学校評議員、教育経験者など）の参加を認め、広い視点から、指導のあり方を研究してはどうか。	1	研究授業の際に大学教授や学校評議員等を招き、授業改善に取り組んでいる学校もあります。より充実した授業づくりに努めていきます。
子どもとふれあう時間を増やすため、何らかの形で、学校の職員を増やしてほしい。	7	教員の定数増につきましては、平成 23 年度より、小学 1 年生の 35 人以下学級実施に伴う定数措置がされています。今後、早期に、全学年での少人数学級実施に伴う定数増が実現されるよう、関係機関に働きかけていきます。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
教員の多忙化がますます厳しくなる中で、学校ですべきこと、外部に委託できることを明確にし、学校が抱え込みすぎないようにする必要がある。	2	学校事務の支援など教員の多忙化の軽減をめざし、学校へのサポート体制の強化を図ります。また、事務の簡略化・効率化を図るため、学校給食費の公会計化及びシステム開発の検討を進めていきます。
施策10の１週間あたり１時間の時間を生み出すという指標は現実的なのか。教職員の多忙化対策を充実してほしい。	1	
子どもの教育のための時間を確保するため、学校現場全体にかかる会計事務を簡略化し、学校給食費や就学支援などの会計事務の簡略化・効率化を早急に進めてほしい。	20	
子どもたちとしっかりと向き合う時間をとるために、出張や会議などを精選してほしい。	2	校長、教員の代表を委員とした「行事調整協議会」を今後も開催し、出張・会議の精選や校務の効率化に努めていきます。
学校事務の集中化は事務の画一化をまねくので、各校の学校事務職員を全校複数化してほしい。	2	学校事務職員の複数配置校を増やすことにつきましては県に要望しているところです。
理不尽な要求をする保護者から教員を守るためにも、クレーム担当者が必要である。	1	理不尽な要求をする保護者に対しては、特定の職員に負担が偏らないように、組織的な対応が必要であると考えております。また、弁護士をはじめとした専門家と連携して、学校問題の解決に当たる体制の整備を図っていきます。
キャリアマイスター制度を活用し、なごやっ子が郷土を愛し、世界で活躍することにつながるとよい。	1	学校の活性化を図り、児童生徒の育成を支援するという趣旨が生かされる事業をめざしていきます。

４ 学校・家庭・地域の連携について （６ 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
親学について、年1回の重点期間を設けるのではなく、学期ごとに実施したり年間を通じて学校ごとに児童会や生徒会でテーマを決めるなど、年間を通じて継続できるような取組みをしてはどうか。	1	名古屋市立小中学校PTA協議会において、「見直そう家庭の役割　育もうよりよい生活習慣」をスローガンに掲げ、「親学アクション」活動に取組んでいます。PTA協議会と連携した「親学アクション」の活動は、年間を通じて行われているところです。
学校・地域・家庭の連携を深め、子どもを見守っていく必要があるのではないか。	1	各小学校では、スクールガードリーダーが、登下校時などに見守り活動をしたり、防犯教室等で不審者への対応の仕方を指導したりしています。また、児童生徒の保護者に、不審者情報や急な行事変更などの緊急情報をメール配信しています。さらに、「地域ふれあい実践講座」を実施しており、学校・家庭・地域の連携を深め、家庭教育の充実・支援を図っています。
子どもの体力向上には、家庭への啓蒙が必要。PTA主催によるサタデースクールを広めてはどうか。講師が見つからない際は教職課程の学生を紹介するなどしたらどうか。	1	子どもの体力向上や親子のふれあいなどにおける家庭の役割は大切であると考えており、パンフレット「親学」の配布等を通して、子どものよりよい生活習慣の向上に向けて保護者に呼びかけているところです。
あい・あい・あいさつ活動を大きく推進し、学校・家庭・地域の連携を深めてほしい。	1	コミュニケーションの第一歩であるあいさつの大切さを再確認し、あいさつを通して地域の大人も子どももつながり合う活動を展開していきたいと考えています。
空いた教室で伝統文化教室の開講をし、老若の文化交流の場としたらどうか。	1	学校施設のご利用につきましては、現在、市民の皆様のご要望を踏まえ、各学校の実情に応じて個別に対応しています。また、伝統文化については、例えば博物館で、さまざまな教育普及活動を行い、内外の歴史・文化を学ぶ事業を実施しています。

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
親がもっと地域とのつながりを深められるような体制をつくってほしい。	1	家庭教育振興の柱として「親学」を提唱しています。パンフレット「親学」の中で、保護者が地域の活動に、より積極的にかかわることのよさを呼びかけているところです。

５ 教育関連制度の改革・改善について（10 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
「高校入学準備金事業」などの事業は、現状目標値を「実施」とせずに具体的に示したらどうか。	1	毎年の応募状況を踏まえながら、真に必要とする方へ貸与などを実施できるよう努めていきます。
保護者負担軽減の施策について、義務教育に関する施策をつくってほしい。	3	経済的にお困りの方を対象に実施している就学援助について、制度の周知と必要な方に援助が行き届くような運用に努めていきます。
就学援助の所得基準を引き上げ、実質的な義務教育無償化をすすめてほしい。	1	
明らかに生活保護と思われる家庭について、学校から区役所に意見を出せる制度をつくってほしい。	2	生活保護の対象となる方は就学援助の対象にもなることから、ご家庭の状況に応じた助言を行っていきます。
就学援助基準に該当している家庭が確実に援助を受けられるよう、学校と区役所が連携して必要な証明がとりやすくなるようにしてほしい。	2	就学援助の各申請項目に必要な証明書類を的確に保護者に案内できるよう努めていきます。
高等学校にも義務教育と同様に独自の奨学金制度をつくってほしい。	1	本市の入学準備金制度や愛知県で実施されている高校生対象の奨学金制度も含め、今後とも各種制度の周知、制度の運用に努めていきます。

６ 生涯を通じた学びの支援について（３ 件）

意見の内容	件数	本市教育委員会の考え方
生涯学習センター等で、長期休業中に「夏休み親子教室」等で、「ご当地カルタ」作りに取組む講座を開いたらどうか。	1	生涯学習センターでは、子ども地域探検隊講座など、名古屋の歴史や文化の魅力について学び、発信する事業を実施しています。
社会教育施設を利用した者をフォローアップする企画を実施すれば、もっと充実した生涯学習ができるのではないか。市民参加のプロジェクトではなく市民が発信するプロジェクトをつくってほしい。	1	なごや学マイスター制度や、社会教育施設におけるボランティア活動の実施などを通して、市民が様々な学習に取組み、その成果を社会に還元しながら生かすことができるよう、支援しています。
元気ななごやっ子を育てるため、民間事業所、NGO、NPOとの連携をもっとよくする施策を講じてほしい。	1	各学校では、地域で活躍する人材をゲストティーチャーとして招き、授業を行うなど、地域との連携を図った取組みを行っており、今後もその充実を図っていきます。また、博物館・科学館・美術館でも、大学・民間企業などとの連携による事業展開を行っています。